

平成29年7月～9月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数DI値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 平成29年9月15日（金）～平成29年9月29日（金）
4. 回収率

	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200社	103社	51.5%
製造業	200社	100社	50.0%
卸売業	100社	55社	55.0%
小売業	100社	51社	51.0%
サービス業	200社	100社	50.0%
全産業	800社	409社	51.1%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のDI値の意味について】

- 業況判断 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、資金繰りは横ばい、雇用人員はやや悪化、業況判断、売上高及び採算は悪化であった。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断は改善、売上高及び雇用人員はやや改善、採算は横ばい、資金繰りはやや悪化となっており、引き続き市内中小企業の動向については、注視していく必要がある。

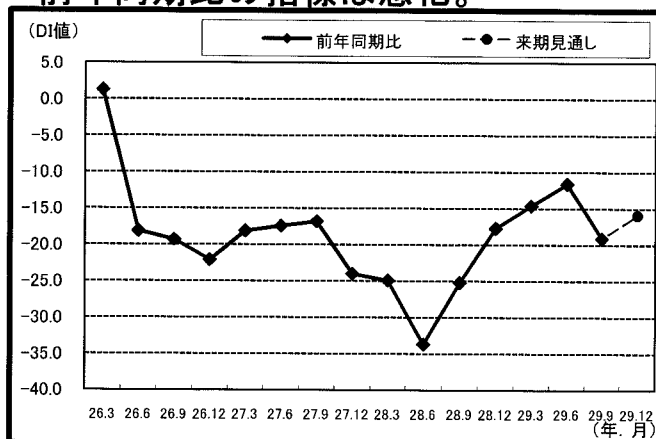
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 11.6 \Rightarrow \Delta 19.1$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 19.1 \Rightarrow \Delta 15.9$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業は2期連続で悪化。製造業、卸売業及びサービス業は悪化。小売業はやや悪化。

・前年同期比の指標は悪化。



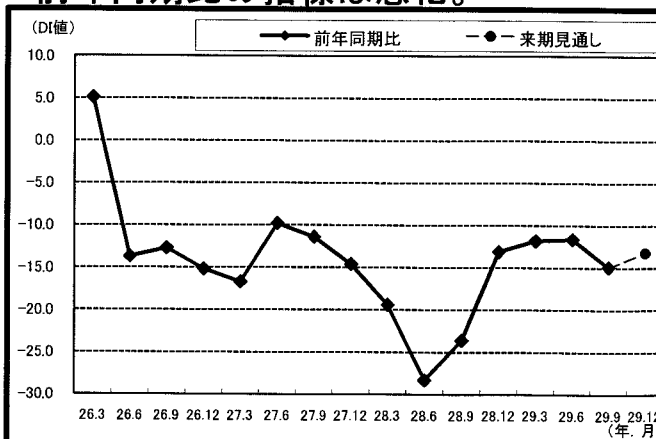
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は悪化。($\Delta 11.6 \Rightarrow \Delta 14.9$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測。
($\Delta 14.9 \Rightarrow \Delta 13.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業は3期連続で悪化。製造業及び卸売業は悪化。小売業及びサービス業は改善。

・前年同期比の指標は悪化。



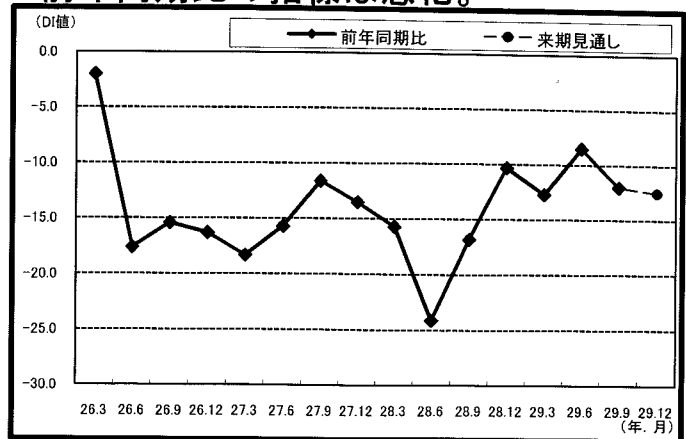
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 8.5 \Rightarrow \Delta 12.0$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 12.0 \Rightarrow \Delta 12.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業、製造業及び卸売業は悪化。小売業は改善。サービス業は横ばい。

・前年同期比の指標は悪化。



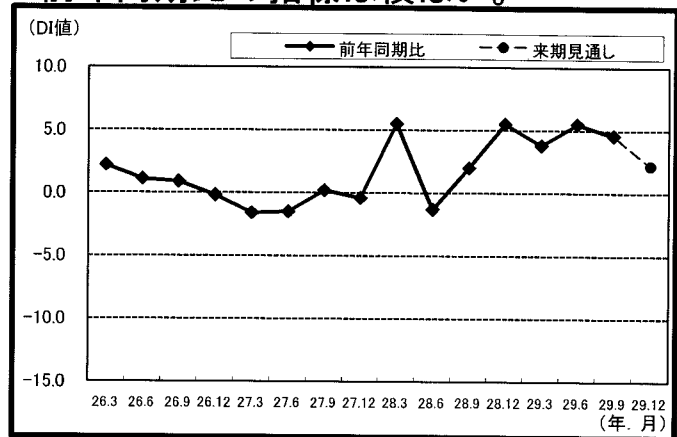
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は横ばい。
($5.5 \Rightarrow 4.6$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($4.6 \Rightarrow 2.2$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業は改善。製造業は横ばい。卸売業及びサービス業は悪化。小売業はやや改善。

・前年同期比の指標は横ばい。



5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標はやや悪化。
($\Delta 0.9 \Rightarrow \Delta 2.9$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測。
($\Delta 2.9 \Rightarrow \Delta 0.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業は横ばい。製造業は2期連続で改善。卸売業及びサービス業は悪化。小売業は改善。

・前年同期比の指標はやや悪化。

